

『インプラント埋入ポジションの重要性』



林 豊

演者は、日々の臨床においてインプラントの補綴装置を製作している。歯科技工所に届く印象体のほとんどは、すでにインプラント体が埋入された状態での症例が多いことを経験している。我々歯科技工士は届いた印象体から患者にとって最良な補綴装置を提供する義務があるものの、インプラント埋入の方向や位置等は歯科医師のみによって判断されている。すなわち、補綴装置を製作する歯科技工士の意見は、そこにはほとんど反映されていないことが多い。しかしインプラント治療でより良い結果を得るためには、歯科医師と歯科技工士が双方のプロとしての仕事を把握しながら共通の認識を持ち、治療のゴールを共有することが重要であると認識している。

そこで本講演では、インプラントの埋入ポジションによる補綴装置に与える影響について、日々の症例を示しながら解説したい。

【略歴】

- 2007年3月 新大阪歯科技工士専門学校卒業
- 2007年4月 (有)ネクサスデンタルラボラトリー入社
- 2011年4月 医療法人成和歯科 千里ペリオインプラントセンター入職
- 2015年1月 株式会社 LAZARUS 入社
- 2021年6月 BOZU dental laboratory 開設

【所属】

- 即時荷重研究会 会員
- 日本口腔インプラント学会 会員
- 日本臨床歯科学会 大阪支部 会員
- 新大阪歯科技工士専門学校 非常勤講師